

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成27年3月

計画の名称	雪や災害に強い地域づくり																											
計画の期間	平成21年度～平成25年度（5年間）			交付対象	富山県、氷見市、滑川市、上市町、入善町、朝日町、舟橋村																							
計画の目標	<p>一年を通じて安全な交通を確保するための雪対策を行い、雪害のないまちづくりを進める。 また、災害時に被災のおそれのある箇所が多数存在しており、地震、水害などの災害時においても安全な通行が可能となる道路整備を行う。 加えて、通学路の安全対策、自転車利用環境整備、老朽化した道路ストックの点検及び修繕等を行い、交通災害の減少に努める。</p>																											
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期の死傷事故件数を1,002件（H21）から902件（H25）へ減少する。 ・災害時の通行規制による損失時間を17,000時間・人/年（H21）から15,000時間・人/年（H25）へ減少する。 																											
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値 (H21当初)</th> <th>中間目標値 (H23末)</th> <th>最終目標値 (H25末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 毎年の冬期（12月～3月）の死傷事故件数より算出する。 （冬期の死傷事故件数の減少）＝（現況の冬期死傷事故件数）－（事業後の冬期死傷事故件数） </td> <td>1,002件</td> <td>942件</td> <td>902件</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 通常走行時と災害発生時に迂回することによって生じる時間差により算出。 （災害時通行規制による損失時間の減少）＝（現況の損失時間）－（事業後の損失時間） </td> <td>17,000時間・人/年</td> <td>16,000時間・人/年</td> <td>15,000時間・人/年</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>											定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値 (H21当初)	中間目標値 (H23末)	最終目標値 (H25末)	毎年の冬期（12月～3月）の死傷事故件数より算出する。 （冬期の死傷事故件数の減少）＝（現況の冬期死傷事故件数）－（事業後の冬期死傷事故件数）	1,002件	942件	902件		通常走行時と災害発生時に迂回することによって生じる時間差により算出。 （災害時通行規制による損失時間の減少）＝（現況の損失時間）－（事業後の損失時間）	17,000時間・人/年	16,000時間・人/年	15,000時間・人/年	
	定量的指標の現況値及び目標値			備考																								
	当初現況値 (H21当初)	中間目標値 (H23末)	最終目標値 (H25末)																									
毎年の冬期（12月～3月）の死傷事故件数より算出する。 （冬期の死傷事故件数の減少）＝（現況の冬期死傷事故件数）－（事業後の冬期死傷事故件数）	1,002件	942件	902件																									
通常走行時と災害発生時に迂回することによって生じる時間差により算出。 （災害時通行規制による損失時間の減少）＝（現況の損失時間）－（事業後の損失時間）	17,000時間・人/年	16,000時間・人/年	15,000時間・人/年																									
全体事業費	合計 (A+B+C)	14,382 百万円	A	14,030 百万円	B	90 百万円	C	262 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	1.8%																		

事後評価（中間評価）

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期	
事後評価（中間評価）の実施体制	事後評価（中間評価）の実施時期
富山県土木部道路課	平成27年3月 公表の方法 富山県ホームページ

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・橋梁などの道路施設の補修や老朽化した除雪機械の更新を優先して事業を行っており、計画期間中に完成した交通安全対策事業が少なかったことから、定量的指標に関する効果発現は低いと考えられる。				
II 定量的指標の達成状況	指標①（冬期の死傷事故件数）	最終目標値	902件	目標値と実績値に差が出た要因	県内における全事故件数についても平成21年より年々減少しており、平成25年は平成21年の2割程度減少している。
		最終実績値	735件		
II 定量的指標の達成状況	指標②（災害時の通行規制による損失時間）	最終目標値	15,000時間・人/年	目標値と実績値に差が出た要因	平成25年は、1939年からの統計で年間降雨量4位の多雨な年であり、降雨による法面の崩落など、通行規制が多数発生したため。
		最終実績値	37,000時間・人/年		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)					

3. 特記事項（今後の方針等）

--	--	--	--	--	--

